

事後評価報告書(日本－スウェーデン研究交流)

1. 研究課題名:「ヒト心毒性検査のためのヒト細胞ネットワークプラットフォームの開発と評価」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:国立大学法人東京医科歯科大学生体材料工学研究所 教授
安田 賢二

2-2. 相手側研究代表者:イェーテボリ大学ザールグレンスカ大学病院臨床化学・輸血学部門
教授 医長 Anders Lindahl

3. 総合評価: (A)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

細胞計測チップの微細加工技術などの開発が進むとともに、スウェーデンから提供されたヒト幹細胞から分化させた心筋細胞を用いて1細胞レベルでの特性を評価する技術の開発にも成功し、1細胞の系と1000細胞以上の細胞集団での電気生理学的特性の違いを見出すなど興味ある解析が実現したことは評価したい。ただ、こうした重要な知見に関し、共同特許出願が評価対象期間中に為されなかったことは残念である。ノウハウとして非公開とすべき技術もあろうと推察されるが、知財、論文として公開可能な技術はタイミングを逸することなくアクションをとるのが望ましいと考える。

(2)交流成果の評価について

双方の強みを生かした連携となり、人的交流のみならず、相互に技術供与が実現できたことを評価したい。

ただし、日本からは海外派遣は助教以上のベテランに集中し、学生の派遣実績が報告書からは読み取れないのは残念である。折角の機会なので、将来的な人材育成の観点からは、若手・学生も含めたより多くの研究者が訪問し直接交流するなどの改善の余地があると思われた。

また、相手方の対応者はほとんど企業に属する技術者と推測される。学・学連携の体制を組んでいるのであるから、基礎的な共同研究でももっと深掘りした交流をしてほしかったと感じる。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

知財化、論文化の手続きを完了したうえで、国内外の製薬企業などとの正式な提携の実現を図るべく注力するとともに、日本側の計測技術を生かした新しいイノベーションとしてのさらなる展開も目指してほしいと期待する。